

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 1340090 _ 001

【1.基本情報】

事業名	浄化槽汚泥処理事業					
担当部名	環境部		担当課名	寺田プラント		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	17	年度～	年度	根拠法令・関連計画	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	各家庭及び事業所などの、浄化槽汚泥設置者が法令に基づき実施した清掃において出た浄化槽汚泥の全量を処理する。					
内容 (手段・手法など)	搬入された浄化槽汚泥をスクリーンプレス脱水機において脱水し、脱水汚泥はトラックにより東部クリーンセンターへ搬出、分離液は希釈後下水道管へ放流する。					
事業の 対象	何を	浄化槽汚泥				
	誰に	家庭及び事業所(令和4年度浄化槽設置基数20,380基、合併浄化槽4,980基)				
	どのくらい	令和4年度浄化槽汚泥搬入計画量 43,204kℓ				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	25,350	780	25,194	780	24,804	780
パートタイム会計年度任用職員A	12,978	1,260	12,978	1,260	12,726	1,260
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	38,328	2,040	38,172	2,040	37,530	2,040

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		83,217	84,179	91,996
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	清掃関係業務	4,290	4,400	4,455
	保守点検業務	7,370	7,700	10,197
	積込運搬業務	19,866	19,866	19,866
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		83,217	84,179	91,996

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	121,545	122,351	129,526

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	121,545	122,351	129,526

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	家庭及び事業所	家庭及び事業所	家庭及び事業所
受益者数	20,710	20,538	20,380
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5,869	5,957	6,356

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	浄化槽汚泥搬入量		単位	k0
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	44,730	44,535	43,204	
実績値	41,940	41,145	40,695	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	下水排水基準不適合件数		単位	件
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	0	0	0	
実績値	0	0	0	
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	浄化槽汚泥(一般廃棄物)の処理は必要である。 廃棄物処理法による自治事務である。 該当なし
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	浄化槽汚泥処理をしながら効率的な運営を行っている。 施設の規模から特に必要ない。(現状維持)
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	年間搬入量をすべて処理できている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	浄化槽汚泥の処理に必要な施設であり、適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充 又は改善することが困難であり、現状のまま 事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や 縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、 事業を取りやめる	現状維持	公共性の高い事業であるため現状維持が望ましい。